

令和 2 年 6 月 1 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02374

研究課題名(和文)地中海型奴隷制度の史的展開とその変容 - 隷属の多様性をめぐる比較史的研究

研究課題名(英文)Historical development of Mediterranean slavery system and its transformation

研究代表者

清水 和裕 (SHIMIZU, Kazuhiro)

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号：70274404

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、地中海型奴隷制度の概念を中心に、世界史上における奴隷制度・隷属制度の比較研究を行うものである。その際、(1)古代環地中海社会から近代世界にいたる地中海型奴隷制度の存在を措定し、また(2)「奴隷制」を、固定された支配と抑圧の制度にとらえるのではなく、社会の多様な隷属/共棲関係の一部として位置づけ、そのあり方を比較史的に検討した。特に、中世イスラーム社会、ポルトガル海洋帝国、近世インド洋海域とアフリカ、ブラジル、アメリカ合衆国における個別事例を比較的に検証し、近世日本の隷属制度との比較も検証することによって、人類史的な流れの中における諸地域の隷属と奴隷制の連関を具体的に検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

奴隷制研究は、近年、国際的にもっとも関心を集めている分野である。世界的に奴隷制と奴隷交易が「人道」に対する罪と理解されるようになるなど、奴隷制度の過去と向き合うことは、まさしく21世紀の世界的な課題となっている。本研究は、地中海型奴隷制度の概念を導入することで、大西洋奴隷交易を世界史上の特異な現象ではなく、古代社会から現代に至る歴史的な奴隷/隷属制度の変遷の中に位置づけるとともに、奴隷制を多様な隷属の一形態と位置づけることによって、世界史における奴隷制度/隷属制度概念の根本的な見直しをはかるとともに、それによって現代社会における隷属の諸形態・諸相を理解し、解決するための重要な視座を生み出した。

研究成果の概要(英文)：In our program, we attempted to carry out a comparative study on slavery and servitude in world history, with focusing on the concept of the Mediterranean type of slavery. When we conducted this comparative historical study, we considered the following points. (1) We assumed the existence of a Mediterranean-type slavery system from the ancient Pan-Mediterranean society to the modern world, and (2) rather than prescribing "slavery" as a system of fixed rule and oppression, we positioned it as a part of various social servitude / cohabitation relationships. In particular, by comparatively examining individual cases in the medieval Islamic society, the Portuguese maritime empire, the modern Indian Ocean region and Africa, Brazil, and the United States, and comparing it with the servitude systems of early modern Japan, we specifically clarified the relation between the Mediterranean type of slavery and various types of servitude in each region in human history

研究分野：西アジア史

キーワード：奴隷制研究 比較史

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の直接的な背景となっているのは、平成 19 年度から 22 年度に行われた科学研究費基盤研究(A)「近代移行期の港市における奴隷・移住者・混血者 - 広域社会秩序と地域秩序」(研究代表: 弘末雅士)において展開された一連の奴隷研究である。この研究において、研究分担者であった清水和裕・貴堂嘉之・疇谷憲洋は、環地中海地域の奴隷制度が、古代世界からイスラーム世界に継承され、さらにスペイン・ポルトガルを経て南北アメリカ大陸へと拡大する過程を描き、これを仮に「地中海型奴隷制度」として概念化した。この研究の成果として、同時に、奴隷制度研究を従来の発展段階論の指標としての役割から解放するために、あえて奴隷の定義を行わず、多様な自由と隷属の展開の中に奴隷制を位置づけることの重要性を指摘した。その成果は、平成 23 年に弘末雅士(編)『越境者の世界史 - 奴隷・移住者・混血者』の第一部「前近代における隷属の多様性・流動性と近代におけるその変容」として出版している。しかし、奴隷に関する研究はあくまでこの基盤研究の一部分にすぎず、その中で提示された新たな方向性は、一種の萌芽的概念として、具体的な検証や展開が行われないままとなっていた。

一方、平成 28 年には、歴史学研究会大会において「人の移動と性をめぐる権力」をテーマとする全体会が開催され、権力関係の対象としての性の問題が、初期イスラーム社会、近代日本社会、近代北アメリカ社会のあり方を通して議論された。このなかで、女性の性は、それぞれの社会関係における管理/隷属のありかたと関わる、という側面が意識されることとなり、奴隷を軸とした隷属の比較研究の必要性が浮かび上がることとなった。

このような状況を受けて、本研究においては、地中海型奴隷制という概念を精緻化させて、その展開を検討するとともに、日本・東南アジアなどの「奴隷」や隷属形態との比較を行った。また、その際に多様な社会における多様な奴隷のあり方を比較研究し、彼らのジェンダーと隷属性の問題にも注目しつつ、「奴隷」や「隷属」といった概念そのものを再検討することとなった。

### 2. 研究の目的

本研究では、地中海型奴隷制度の概念を中心に、世界史上における奴隷制度・隷属制度の比較研究を行った。その要点は以下の 2 点であった。(1)古代環地中海社会から近代世界にいたる地中海型奴隷制度の存在を措定し、特にイスラーム成立以降から近代にいたる制度の、継承制・関係性を検証し、その世界史的意義を問うこと、(2)一方で、「奴隷制」を、固定された支配と抑圧の制度ととらえるのではなく、社会の多様な隷属/共棲関係の一部として位置づけ、それぞれの多様な隷属関係のあり方や、その地域の「奴隷制」のあり方を比較史的に検討すること。この両者を結合させることにより、現代にいたる隷属と奴隷制のあり方の世界史的な見取り図を提示し、同時に「奴隷制」概念の再評価を図ることを、本研究の目的とした。

### 3. 研究の方法

(1)上述の目的を受けて、本研究においては、(1)古代環地中海社会から近代世界にいたる地中海型奴隷制度の概念について、特にイスラーム社会成立からヨーロッパの拡大をへて近代にいたる時期において、具体的にその継承制・関係性を検証し、その意義を問うとともに、(2)「奴隷制」を、固定された支配と抑圧の制度ととらえるのではなく、社会の多様な隷属/共棲関係の一部として位置づけ、地中海型奴隷制度が社会の基盤に存在した地域、地中海型奴隷制度の拡大に従ってその強い影響下におかれた地域、地中海型奴隷制度と無縁であるか、その影響が極めて小さかった地域、のそれぞれの多様な隷属関係のあり方や、その地域の「奴隷制」のあり方を比較史的に検討することとした。そして、この両者を結合させ、また、近代において一気にグローバルに押し寄せた奴隷解放の波が、いかに制度的隷属・奴隷制に終焉をもたらし、またそれを変貌させたかに注目しつつ、現代にいたる隷属と奴隷制のあり方の世界史的な見取り図を提示することを試みた。

(2)その実施にあたっては、各年度に課題を設定して段階的に研究を進展させることとした。初年度は地中海型奴隷制度の概念を検証すべく、問題点の整理とそれに伴う実証作業をすすめる。第 2 年度は、比較史の観点を強め、地中海型奴隷制度をとりまく多様な隷属関係、およびその制度外の地域における隷属関係や奴隷制の展開について検討する。最終年度は、その成果を総合し、地中海的奴隷制度の概念を確立し、様々な時代・社会における「隷属と社会制度」の関係性を明示化する。課題推進のために、海外での史料収集や現地調査を行い、特に、第 2 年度に共同海外調査を実施した。またその成果を議論する場として各年度に複数の研究会を実施し、初年度には、研究の方向性を確かなものとするため、海外の研究者を招いたワークショップを開催した。

(3)まず初年度(平成 29 年度)においては、当初の設定に従って中世イスラーム社会、ポルトガル海洋帝国、アフリカ・インド洋海域、ブラジル、アメリカにおける奴隷制度・隷属制度について、研究史を踏まえつつ問題点の整理とすりあわせを行った。それとともに、奴隷制と隷属関係に関する包括的な類型化の試案を提出し、その諸特徴を分析・一般化することによ

て「奴隷制度と隷属」に関する包括的な議論のための準備をすすめた。このように、比較史のための包括的研究の基盤を整理するとともに、個別に史料調査・分析を進め、また必要に応じて、個別に海外における実地調査・資料調査などを行った。

これらの一環として、平成29年11月にはUCLA名誉教授オルパース氏を招聘して、本課題主催の国際ワークショップBonded Migration and Identity in the Indian Ocean World, 18th-20th Centuryを開催した。このワークショップにおいて、清水が「地中海型奴隷制度」研究の意義を述べるとともに、オルパース氏、重松伸司氏(名古屋大学)、鈴木英明氏が、それぞれインド洋の奴隷制と文化の伝播、インド-東南アジア間の隷属民の移住、近代イランの逃亡奴隷に関する報告を行い、国際的、世界史的視野における奴隷制度・隷属の諸類型についての意見交換を行うことによって、地中海的奴隷制度論の有効性を検証した。これらの研究によって本課題研究においては、研究者間において奴隷制と隷属に関わる問題意識を共有し、その論点の整理を行うなど、国際的な奴隷・隷属民研究をすすめた

(4) 第2年度(平成30年度)においては、計画に従い、中世イスラーム社会、ポルトガル海洋帝国、アフリカ・インド洋海域、ブラジル、アメリカにおける奴隷制度・隷属制度について、地中海型奴隷制度論の構想に照らしてその類型的な特徴を明らかにし、他地域の比較を進めた。特に、当該年度は近代における各地の奴隷制度が、地中海型奴隷制度との接触の中でいかに変容・発展し、また消失していくかに注目し、前近代のあり方と比較しつつ検討を行った。

その成果を公開し研究をさらに推進するために、平成30年11月には史学会大会における公開シンポジウム「「奴隷」と隷属の世界史」を、本科研プロジェクトを中心として開催した。このシンポジウムにおいては、研究代表清水が地中海型奴隷制度論を提唱する問題提起を行い、研究分担者である鈴木英明、貴堂嘉之が報告を、松井洋子、鈴木茂がコメントを行った。この場においては、特に近代における多様な奴隷制度の展開を、地中海型奴隷制度の概念を導入しつつ検討し、広く意見交換を行って、本プロジェクトの方向性の検証を行った。

さらに平成30年12月から翌1月にかけて、ガーナ共和国、セネガル共和国、ガンビア共和国を歴訪するアフリカ西海岸国際調査を実施した。これによって、主に近代におけるアフリカ系奴隷の出荷拠点を連続的に調査し、その実態を検討した。これらの研究によって本課題研究においては、研究者間において奴隷制と隷属に関わる問題意識を共有し、その論点の整理を行うなど、国際的な奴隷・隷属民研究をすすめた。

(5) 最終年度(平成31年度)においては、研究対象とした各地域・時代における奴隷制度・隷属制度について、3年間を通じて明らかになった地中海的奴隷制度の概念・実態と、それらの影響の強い地域、弱い地域における隷属の様々な形態に関する知見を総合し、本研究課題の目的である、世界史上における奴隷制度・隷属制度に関する独自の比較史的議論の深化に努めた。

これら一環として特に前年度に行ったアフリカ西海岸国際調査を受けて、その成果を検証するとともに、その研究を発展させ、なぜ近代・現代における奴隷解放が短期間の内にすみ、奴隷制度が、少なくとも制度としては消えていったのかという問題を共有し検討を行った。さらにブラジルとガーナの間の黒人奴隷の往還運動に着目し「負の遺産としての奴隷制度」が独自の展開みせつつ経済効果を生む状況を検討した。そして以上の成果を念頭においた、新たな発展的プロジェクトを構想し、基盤研究(A)「「奴隷」と隷属の世界史-地中海型奴隷制度論を中心として-」として応募し、採択された。

これらの研究によって本課題研究においては、研究者間において奴隷制と隷属に関わる問題意識を共有し、その論点の整理を行うなど、国際的な奴隷・隷属民研究をすすめ、その成果は、全期間を通して、国内外の学術雑誌その他に論文および著作として発表した。

#### 4. 研究成果

(1) 3年間の研究を通して、地中海型奴隷制度の概念が、通時代的な、奴隷制度および各地域の隷属制度のあり方を比較検証する際に、非常に有効な作業仮説であることが明らかとなった。一方で、この概念を実証的に検証する必要性がさらに高まり、この作業は令和2年度より開始する後継科研(基盤A)において継続的に実施されることとなった。また、その議論の結果として、近代におけるプランテーション型奴隷労働は、歴史的に特異な現象であると同時に、それまでの奴隷制/隷属制との継承関係抜きには理解することができないこと、すなわち大西洋型奴隷交易は、地中が鑄型奴隷制度の議論のうちに位置づけられるべきであること、近代における「奴隷解放」とい事件の歴史的評価が極めて重要であり、それは地中海型奴隷制度の拡大と周辺地域への浸透という現象を視野におきつつ、普遍的に隷属が継続する現代をも見据えながら、検討する必要があること、「歴史の記憶」としての奴隷制度の記憶は、単なる負の遺産への反省だけではなく、現代の経済や社会関係、国際関係をも巻き込んだ、一つの現象として虎視眈眈なければならないこと、などが明らかとなった。これらのうち、未解決の課題は、これもまた後継科研において検証をすすめることとなっている。

(2) 以上のような全体的成果に加えて、個別の研究としては以下のような成果を得た。

まず、中世イスラーム社会については、イスラーム社会の家内奴隷を中心とした奴隷制度が、環地中海・メソポタミアの古代世界から継承したものであり、その性格が基本的に大きく変化していないことを確認した。一方で、古代ギリシア世界などを「奴隷社会」と規定づける大土地労働奴隷については、少なくとも近世以前のイスラーム社会においては、非常に記録に残りづらいことを示し、近代プランテーションにおける奴隷労働が、それ以前の、地中海・メソポタミアにおけるイスラーム社会の奴隷制度とは大きく性格を異になるものであることを確認した。古代世界における大規模奴隷労働がイスラーム社会において、なぜ少なくとも記録上からは失われたのかについては、今後の大きな検討課題として残される。その上で、イスラーム社会における奴隷制度は、保護 - 被保護関係の側面が非常に強力であり、また奴隷解放に関する社会的・倫理的圧力が強かったことから、奴隷と解放奴隷と自由人の垣根が、他の社会に比しても低かったことを明らかにし、そのことが、逆に奴隷制の廃止という「最終的な解放」への稼働力を生み出さなかったことを示した。

(3)ポルトガル海洋帝国については、15世紀から18世紀にかけてのポルトガルの奴隷貿易と奴隷制度についての先行研究を収集・整理し、ポルトガルがアジアからアフリカ、アメリカにかけて活動領域を広げながら各地で奴隷取引に携わり、世界的な規模での奴隷取引ネットワークを形成する一方で、首都リスボンを中心にアフリカ系の黒人奴隷を中心に大量の奴隷が流入、販売、使役され、日常生活のいろいろな場面で奴隷や解放奴隷が活躍する社会が形成されたことを明らかにした。その上で、1750年から1777年にポルトガルにおいて啓蒙的改革を行ったポンバル政権下で公布されたポルトガル本国における奴隷制の廃止につながる二つの重要な法令について、この法令が出された背景や意義について検討し、19世紀の奴隷制および奴隷貿易廃止への動きにつながる転換点であることを再確認した。

(4)ブラジルの奴隷制に関しては、開港・独立を機にブラジルを訪れた外国人が残した図像や滞在記などをもとに、19世紀の都市社会（リオデジャネイロ、サルバドール）における多様な奴隷労働のあり方と、奴隷主と奴隷の関係に焦点を当てた。成果の一部は、2018年度史学会大会のシンポジウムで報告へのコメントと合わせて紹介した。

ブラジルは、合衆国とは異なり、キューバと同様、奴隷の供給を国内ではなくアフリカに依存しており、それは国際的に奴隷貿易が禁止された19世紀にも続いた。それゆえ、19世紀の奴隷制社会のあり方には、アフリカとの取引関係が関わっていた。その際、大西洋奴隷貿易で一般的に想定されるアフリカから新大陸への一方向的なヒトの移動ではなく、解放奴隷の帰還や奴隷船を含む交易船乗組員といった形での新大陸からアフリカへの人の移動、宗教指導者の交流、様々な物産の相互移動といった形で、ブラジルとアフリカは深く繋がっていた。アフリカに帰還した解放奴隷の子孫のコミュニティが、西アフリカ各地に存在しており、2018年末に、ガーナの首都アクラでその一つを訪れ、予備的な調査を行った。

(5)アフリカ・インド洋海域については、インド洋西海域及びアフリカ大陸における地中海型奴隷制の展開の実態解明を行い、新大陸を経由した地中海型奴隷制がどのようにして既存の奴隷制と交流し、どのような奴隷制度を形成していったのか、という観点から、文献資料の収集とその読解を通して、本研究の全体像のなかにインド洋西海域を位置づけることを試みた。インド洋西海域に関しては、19世紀初頭にモーリシャス島を経由して、アフリカ大陸東部沿岸にクロウヴやココヤシのプランテーション栽培が導入された結果、大規模な人員を動員する労働奴隷制が確立していったが、他方、既存の家内奴隷制も併存し、双方は奴隷個人の資質（年齢や言語能力、ホスト社会への適性）によって往来可能であったことが明らかになった。また、資料調査のほかに、現地調査も実施し、とりわけアフリカ黒人を用いたプランテーション奴隷制が確立されたサントメ島の踏査を行った。それらの成果として、1冊の単著、4本の研究論文、2本の一般向け文章、1本の新聞連載（全4回）を刊行し、13本の研究報告と1本の一般公演を行った。

(6)アメリカ合衆国については、「地中海型奴隷制度概念の検証」については、共同研究の成果として、合衆国史という一國史的枠組みで議論されてきた奴隷制研究を、南北アメリカ大陸との関係、とりわけブラジルの奴隷制との比較検討を行った。また、アフリカ西岸と南北アメリカ大陸をつなぐグローバル・ヒストリー的理解をすすめて、それらの成果を、二〇一九年に刊行した貴堂嘉之『南北戦争の時代 一九世紀』（岩波新書）の奴隷制の展開と奴隷制廃止に関する歴史叙述に活かした。

また「多様な隷属形態の比較研究」については、黒人奴隷の人流とアジアからの苦力、契約労働者の人流を連続的なものとして検証する視座をもとに、この近代における隷属労働者と自由労働者に関する理解をさらに深め。これは、史学会シンポ（二〇一八年一月二四日）で報告をし、二〇一八年刊の貴堂嘉之『移民国家アメリカの歴史』（岩波新書）において歴史叙述に活かした。

(7)日本近世については、「奴隷」「隷属」という視角から近世日本社会を再検討し、日本国内に歴史的に存在した「隷属」的状态と、slaveの訳語としての「奴隷」概念を対比検討した。

研究史上の問題として、発展段階論衰退の後は「奴隷」の定義も学界において共有されているか、という疑問が生まれており、今後の検討を必要とする。また、日本固有の隷属的状況として、制度・身分としての「奴隷」ではなく「家」や共同体の内部関係として存在する「隷属」のあり方を検討し、それらが、社会集団を前提とする近世身分論では明示されない、身分内の階層性として処理されていることを指摘。「隷属」に関して残存する要素として、経済的關係（債務）・主従制的関係・擬制的家族親族関係（親・本家）を分析、売春婦の奉公契約に人身売買／債務奴隷的要素が濃く残ることの意味などを検討した。「地中海型奴隷制」概念を用いることで、近世初期日本における社会の再編成を「地中海型奴隷制」との出会いとその影響という側面から考察するとともに、社会に内在し続ける「隷属」を比較史的視点から把握する視座が得られた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 鈴木 英明	4. 巻 44-4
2. 論文標題 海域世界の鼓動に耳を澄ます 19世紀インド洋西海域世界の季節性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 591-623
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鈴木 茂	4. 巻 24 - 11
2. 論文標題 提言「歴史的思考力を育てる大学入試のあり方について」の意義	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 57 - 60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鈴木 茂	4. 巻 48 - 9
2. 論文標題 アクラの「ブラジル人」－ブラジル・ハウスを訪ねて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊みんぱく	6. 最初と最後の頁 6 - 7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小沢弘明、永原陽子、鈴木茂	4. 巻 1146
2. 論文標題 <鼎談> 1989年を世界史的に考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 22-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井 洋子	4. 巻 834
2. 論文標題 日蘭関係に関するオランダ語史料ー日本商館文書を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 28-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貴堂 嘉之	4. 巻 989
2. 論文標題 移民国家アメリカの歴史再考ーヘイトの時代に歴史学ができることー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 12-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木英明	4. 巻 5
2. 論文標題 世界史的共通体験としての奴隷廃止とそこにおけるリスク	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 多文化社会研究	6. 最初と最後の頁 367-384
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideaki Suzuki	4. 巻 2
2. 論文標題 Agency of Littoral Society: Reconsidering Medieval Swahili Port Towns with Written Evidence	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of Indian Ocean World Studies	6. 最初と最後の頁 73-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井洋子	4. 巻 72
2. 論文標題 江戸時代の日本とオランダ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本学士院紀要	6. 最初と最後の頁 273-285
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木英明	4. 巻 963
2. 論文標題 イギリス臣民」が作り出す不条理 19世紀インド洋西海域における境界と不条理の一事例	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 10-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 清水 和裕
2. 発表標題 イスラーム帝国アッバース朝における「周縁」と改宗者
3. 学会等名 広島史学研究会大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水 和裕
2. 発表標題 9～10世紀ユーラシア西部のイスラーム社会からみた「スイーン」と東部ユーラシア - 彼方の中国・我らのソグド -
3. 学会等名 唐代史研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 鈴木 英明
2. 発表標題 「アフリカ人」の誕生 - 19世紀インド洋西海域における救出奴隷の行方
3. 学会等名 公開シンポジウム「アジアの海を渡る人々：18・19世紀の渡海者」立教大学
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木 英明
2. 発表標題 インドとアフリカ インド洋海域世界史の観点から
3. 学会等名 NIHUプログラム「南アジア地域研究」主催2019年度南アジアセミナー、広島大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木 英明
2. 発表標題 African Diaspora in the 20th Century Persian Gulf: Preliminary Observations with Slave Narratives
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 貴堂 嘉之
2. 発表標題 合評会『移民国家アメリカの歴史』（岩波書店、2018年）
3. 学会等名 日本アメリカ史学会第45回例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 貴堂 嘉之
2. 発表標題 移民国家アメリカの歴史再考－「ヘイト」の時代に歴史学ができること－
3. 学会等名 2019年度歴史学研究会全体会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水 和裕
2. 発表標題 地中海型奴隷制度論と隷属の類型
3. 学会等名 第116回史学会大会公開シンポジウム「「奴隷」と隷属の世界史」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 貴堂 嘉之
2. 発表標題 奴隷制における「近代」とは何か－アメリカ合衆国の奴隷制研究史を中心に－
3. 学会等名 第116回史学会大会公開シンポジウム「「奴隷」と隷属の世界史」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木 英明
2. 発表標題 プロセスとしての奴隷制 - 19世紀スワヒリ社会における奴隷、自由、文明
3. 学会等名 第116回史学会大会公開シンポジウム「「奴隷」と隷属の世界史」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hideaki Suzuki
2. 発表標題 Bonded Labour in the First Half of the 20th Century Persian Gulf: A Quantitative Approach
3. 学会等名 International Conference: Capture, Bondage and Forced Relocation in Asia (1400-1900)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木 英明
2. 発表標題 20世紀初頭のペルシア湾におけるイギリス帝国と奴隷制 奴隷解放調書をめぐって
3. 学会等名 植民地国家建設比較研究会、京都大学東南アジア地域研究研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideaki Suzuki
2. 発表標題 The Rise of Nosy Be: Conjunction between Indian Ocean network and imperial expansion
3. 学会等名 International Conference: Maritime Monsoon Asia in the Early Modern Period: Global Trade and Early European Colonial Cities
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木 英明
2. 発表標題 奴隷交易からだれが利益を得たのか？ 19世紀インド洋西海域世界における奴隷交易
3. 学会等名 現代中東地域研究レクチャー・シリーズ、国立民族学博物館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 疇谷憲洋
2. 発表標題 ポルトガル海洋帝国における渡海者・境界人～流罪人・孤児・新キリスト教～
3. 学会等名 シンポジウム「アジアの海を渡る人々 16・17世紀の渡海者」立教大学池袋キャンパス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木茂
2. 発表標題 変わる大学入試と歴史教育
3. 学会等名 シンポジウム「歴史教育の未来を拓く 教科書・授業・入試が携えて進む改革」日本大学文理学部人文科学研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松井洋子
2. 発表標題 江戸時代の日本とオランダ
3. 学会等名 国際学士院連合第八十九回総会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 奴隷制とリスク、奴隷制廃止とリスク 世界史的視点から
3. 学会等名 長崎大学公開シンポジウム「リスク社会をめぐる人文社会科学の超域的枠組み構築へ向けて」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 20世紀前半ペルシア湾岸における奴隷解放調書の資料性の検討
3. 学会等名 第59回日本オリエント学会年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 『イギリス臣民』が作り出す不条理 19世紀インド洋西海域における境界と不条理の一事例
3. 学会等名 2017年度歴史学研究会大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideaki Suzuki
2. 発表標題 Baluchi Experience in Human Trafficking in the Early Twentieth Century Persian Gulf
3. 学会等名 Bonded Migration and Identity in the Indian Ocean World, 18th-20th Century
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideaki Suzuki
2. 発表標題 Japanese Kanga in the Context of the Indian Ocean World
3. 学会等名 Textile Pattern Designs in the Global Entanglement: Katagami, Batik, Sarasa and 'African Prints' on the Move, 1800-2000 (招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 松井洋子・佐藤孝之・松澤克行	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 537
3. 書名 甦る「豊後切支丹史料」 パチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書よりー	

1. 著者名 高埜 利彦・松井 洋子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 261
3. 書名 近世史講義 女性の力を問いなおす	

1. 著者名 貴堂 嘉之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 234
3. 書名 南北戦争の時代 19世紀	

1. 著者名 貴堂 嘉之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 256
3. 書名 移民国家アメリカの歴史	

1. 著者名 長谷川 修一、小澤 実、貴堂 嘉之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 歴史学者と読む高校世界史	

1. 著者名 小杉 泰、黒田 賢治、二ツ山 達朗、清水 和裕	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 288
3. 書名 大学生・社会人のためのイスラーム講座	

1. 著者名 Manuel Perez Garcia, Lucio De Sousa, Hideaki Suzuki	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 352
3. 書名 Global History and New Polycentric Approaches	

1. 著者名 島田 竜登、太田 淳、鈴木 英明	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 300
3. 書名 1789年 自由を求める時代	

1. 著者名 貴堂嘉之, 沢山美果子, 慎蒼宇, 若尾政希, 大門正克, 松原宏之, 木畑洋一, 粟屋利江, 藤野裕子, 安村直己, 栗田禎子, 岡田泰平, 沼尻晃伸, 小沢弘明, 小野将, 永原陽子, 大門正克, 倉地克直, 高田実	4. 発行年 2017年
2. 出版社 績文堂出版	5. 総ページ数 303
3. 書名 新自由主義時代の歴史学 : 第4次現代歴史学の成果と課題 1	

1. 著者名 歴史学研究会, 鈴木茂, 川戸貴史, 廣瀬憲雄, 黒木英充, 加藤玄, 野田仁, 三品英憲, 中澤達哉, 西山暁義, 池田嘉郎, 松沢裕作, 岸本美緒, 小野沢あかね, 飯島涉, 永野善子, 須田努, 成田龍一, 高澤紀恵, 横山百合子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 績文堂出版	5. 総ページ数 303
3. 書名 世界史像の再構成 : 第4次現代歴史学の成果と課題 2	

1. 著者名 弘末雅士, 清水和裕, 疇谷憲洋, 鈴木英明, 高橋秀樹, 上田信, 渡邊佳成, 荷見守義, 荒野泰典, 和田郁子, 唐澤達之, 守川知子, 佐々木洋子, 中里成章, 石川禎浩, 土田映子, 栗田和明	4. 発行年 2018年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 350
3. 書名 海と陸の織りなす世界史	

1. 著者名 鈴木重編, 清水和裕, 小林登志子, 島田誠, 森谷公俊, 山本與一郎, 新保良明, 大月康弘, 鈴木明日見, 高野太輔, 齋藤久美子, 田村愛理, 保坂修司, 坂本勉, 粕谷元	4. 発行年 2017年
2. 出版社 清水書院	5. 総ページ数 401
3. 書名 悪の世界史 西洋編上・中東編	



1 . 著者名 Hideaki Suzuki	4 . 発行年 2017年
2 . 出版社 Palgrave	5 . 総ページ数 224
3 . 書名 Slave Trade Profiteers in the Western Indian Ocean: Suppression and Resistance in the Nineteenth Century	

1 . 著者名 Gwyn Campbell, Ronald Kydd, James Francis Warren, Nigel Worden, Sue Peabody, Alessandro Stanziani, George Michael La Rue, Hideaki Suzuki, Sravani Biswas, Subho Basu, Steven Serels.	4 . 発行年 2018年
2 . 出版社 Palgrave	5 . 総ページ数 304
3 . 書名 Bondage and Environment in the Indian Ocean World	

1 . 著者名 Pedro Machado, Sarah Fee, Gwyn Campbell, Prasanna Parthasarathi, Lakshmi Subramanian, Seiko Sugimoto, Hideaki Suzuki, Steven Serels, Derek Heng, Kenneth R. Hall, MacKenzie Moon Ryan, Himanshu Prabha Ray, Gwyn Campbell, Julia Verne, Jeremy Prestholdt.	4 . 発行年 2018年
2 . 出版社 Palgrave	5 . 総ページ数 426
3 . 書名 Textile Trades, Consumer Cultures, and the Material Worlds of the Indian Ocean	

1 . 著者名 Manuel Perez Garcia, Lucio de Sousa, Colin Mackerras, Richard von Glahn, Hideaki Suzuki, Gakusho Nakajima, Mihoko Oka, Agnes Kneitz, Anne E. C. McCants, Carlos Marichal Salinas, Bartolome; Yun-Casalilla, Nadia Fernandez-de-Pinedo, David Pickus.	4 . 発行年 2018年
2 . 出版社 Palgrave	5 . 総ページ数 352
3 . 書名 Global History and New Polycentric Approaches: Europe, Asia and the Americas in a World Network System (XVI-XIXth centuries)	

1. 著者名 Alice Bellagamba, Sandra E. Greene, Martin A. Klein, Bruce L. Mouser, Pierluigi Valsecchi, Ahmadou Sehou, Eric Allina, Eric Hahonou, Felicitas Becker, Ann O'Hear, Francesca Declich, Hideaki Suzuki, Marie Rodet, Lotte Pelckmans, Paolo Gaibazzi.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Africa World Press	5. 総ページ数 363
3. 書名 African Slaves, African Masters: Politics, Memories, Social Life	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松井 洋子 (MATSUI Yoko)  (00181686)	東京大学・史料編纂所・教授  (12601)	
研究分担者	鈴木 茂 (SUZUKI Shigeru)  (10162950)	名古屋外国語大学・世界共生学部・教授  (33925)	
研究分担者	貴堂 嘉之 (KIDO Yoshiyuki)  (70262095)	一橋大学・大学院社会学研究科・教授  (12613)	
研究分担者	疇谷 憲洋 (KUROTANI Norihiro)  (80310944)	大分県立芸術文化短期大学・その他部局等・教授  (47501)	
研究分担者	鈴木 英明 (SUZUKI Hideaki)  (80626317)	国立民族学博物館・グローバル現象研究部・助教  (64401)	